

総務文教委員会会議録

平成23年3月16日

14時42分 開 会

15時06分 閉 会

網 走 市 議 会

午後2時42分 開会

○小田部委員長

総務文教委員会をただいまから開きます。

網走タイムズの今村記者が傍聴を希望しておりますので、これを許可してよろしいですね。

(「はい」の声あり)

○小田部委員長

許可します。

予算特別委員会等で大変熱心に御議論いただいた後であります、本当に御苦労さまです。

先ほど本会議で付託された議案1件を本日審議をいたします。

それでは、議案第28号平成22年度網走市一般会計補正予算、これについて説明をお願いします。

説明要りませんね。それでは、早速議題として質疑を受け付けます。議案第28号ですから、職員の退職手当、それから積立金、それから見舞金、この3件を一括します。

○山田委員

職員給与費の関係で、3,244万3,000円と。定年退職に伴わない急な退職なのか、ちょっと中身はわかりませんが、氏名は別にして、5名程度というような話もちょっと聞いているのですが、実際、何名程度なのか。

○鈴木職員課長

早期退職される方が今回5名出まして、それに伴う補正でございます。

○山田委員

それぞれ事情があってやめられるということですから、これは致し方ないのですが、大変残念な気はしますけれども、新年度に当たっての補充については大体決まっていると思いますし、急遽の5名の退職と。ちょっと特殊な部分については対応されている話も耳にしていますが、ほかの補充も含めて、最近では4月1日採用というところが多くなったのですが、昔は7月、10月とか、1月採用とか、節目、節目の採用も一つあった時代もあったのですが、職員も相当減っている状況がありまして、私としては、相当厳しい状況にあるだろうというふうに認識している部分がありますので、こういう緊急に出た退職ですけれども、ぜひ対応を含めて、仕事に支障のないように対応をお願いしたいというふうに思いますが、何かコメントがあればお願いしたいと思います。

○川田企画総務部長

今回の早期退職ということで、現実的に4月1日の職員体制を、配置はこれからすることになりますけれども、現実には予定している人数を確保できないという状況も想定される場合があります。その場合には、早期の採用計画を立てて、事務に支障がないように進めていきたいというふうに思っています。

○山田委員

今、部長のほうから御答弁いただきましたので、ぜひ最大限の対応をお願いしたいと思えます。

それと、財政調整基金の繰り入れの関係で、積み立てになるのですが、1億6,171万5,000円と。これだけ市の財政が厳しい中で、基金積み立てというのも非常に私は大事だというふうに思っています。

ただ、反面、昨年は人事院勧告含めて、非常に給与の部分とか手当の部分も含めていろいろな状況があった中で、逆に今の政権になってからだと思いますが、言葉がいいかどうか、昔から使っているものですから、表現がおかしかったら御指摘いただきたいと思いますが、実際、ペナルティがない状況が一つ出てきているのだなというふうに思うのです。

それで、1億6,100万円ですから、景気が非常に悪い中で、雇用がなかなか生まれないと。先ほど言ったように、一方では積み立てなければならぬわけですが、状況の中で、これだけのお金があれば、もう少しいろいろな形で使える道はなかったのがどうか、ちょっとその辺を含めてお聞かせいただきたいと思いますが。

○佐藤企画総務部次長

去年の12月段階でいろいろと補正もさせていただきましたし、1月の段階でも国の交付金に上乗せして事業も追加いたしましたし、子宮頸がんとかワクチンのやつも補正いたしました。1月のときの補正でも一般財源およそ1億5,000万円ほど使いまして追加補正をさせていただいたという経過がございます。

それで、今まで9月まででもいろいろな事業の中で、原課からのいろいろな補正の要求があった中では、落としてつけなかったということはございませんので、今までの事業の中ではやってきたというふうに思っております。

ただ、今委員がおっしゃったように、これだけ

お金があるのであればということですが、この金額につきましても、時間の関係もございましたけれども、11月末、12月の初めになってから交付税の再算定ということで、平成22年度は再算定がありました。21年度は再算定がなかったのですけれども、22年度は再算定があったということで、かなりお金に余裕が出てきたという形になっております。

以上でございます。

○山田委員

次長言われるように、国の補正も一つあった中で、市としても本当に節目、節目で、補正含めて、繰り越しの分もちろん含めてですが、対応されたというふうに私どもは評価はしていますが、今御答弁いただいたように、もう少し使い道がなかったのかという一つの私の思いで質問させていただいていますから、これはこれとしてしっかり積んでいただいて、また何かのときに使う形にきつとなるのだと思いますが、理解という表現よりは、了解をさせていただきたいと思います。

それと、100万円については、市長のお話もちらっと耳にしている段階では、網走市が先駆けて金額提示をしたという経緯があると思うので、近隣の町村も同額の義援金を送るという話も出ていますから、ただ、ここは数字で、町村がこうなので、したら市が何ぼだという話になるのかは一つあるのですが、これから状況を見る中で、上積みという方向もきつとあるのかもしれませんので、ここは100万円はとりあえず私としては了解をさせていただいて、状況を見ながら、また増額のことも私としても頭に入れさせていただきたいと、こんなふうに思うのですが、よろしく願いしたいと思います。

○飯田委員

これは12月だとか、いろいろ議論させてもらいました。交付税の増額になりました。臨時財政対策債が減って、プライマイナス1億円以上の増ということで、もっともっと活用できるのではないかなというような議論もさせてもらいました。

そういう意味では山田委員の思いは同じなのですが、ただ、財政調整基金に積むということであれば、私たちも財政調整基金を取り崩してそういうような事業をやれという主張もしていますので、そういう意味では、平成23年度に持ち越

していくと。また違う形で市民の施策で役立てるのではないかなということで、そういう意味では了承いたします。

○小田部委員長

他に。

(「なし」の声あり)

○小田部委員長

それでは、議案第28号については、皆さんの御意見をいただき、全会一致をもって原案可決すべきものと決定させていただいてよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○小田部委員長

それでは、全会一致、原案可決すべきものと決定いたします。

この際ですから、ただいまの意見を含めた、何かその他があれば、委員の皆さん、御発言。

○山田委員

予算等審査特別委員会も、あす、取りまとめの状況になりました。

それで、東北を中心とした地震、津波、また、福島の第一原発を含めて、現地では大変な状況になっています。

それで、予特では総務費の関係が10日に終わっていましたが、関連で質問ということは一つあったのかもしれませんが、大変申しわけなく思いますが、せっきくの総務文教委員会ですから、ちょっと私からこれに関して何点か質問なり、お願いの部分もあるかもしれませんが、お話をさせていただきたいと思うのですが、中身については、皆さんもう既に承知のことですから、ストレートに質問に入らせていただきます。

今の段階で、国、道含めて、網走市に対する要請というのもきつとあると思います。

それと、網走市独自で100万円の話も一つありますし、ここまで話すことがあるかどうかですが、私たち議員会としても義援金と、それと、管理職の皆さん、課長職、部長職含めてということでお聞きをしています。

それで、お金、義援金はまた別にして、要請の部分と、網走市独自で今現在で対応していることがあれば、ちょっと御報告いただきたいと思うのですが。

○大澤副市長

お金につきましては、ただいま議会のほうに上程をさせていただきました。14日の午前ですが、

8時半から緊急的な部長会議を開きまして、情報の共有ということと、それから、人的な支援体制をどうするかというようなことについて協議を行いました。

お金につきましては今言ったとおりですが、人的な部分についてちょっと述べさせていただきますけれども、現在、北海道を通して、土木技師の派遣の打診がございます。恐らくこれ、全道的に数を取りまとめているのではないかというふうに思っています。したがって、これは遅かれ早かれ、何名出せますかというような形で要請が来ると思います。私どもとしては、土木技師については2名の用意はあるというふうに答えております。

あわせて、日本水道協会のほうから、給水班という形で同じような打診がございます。これに対しましても2名ということで御返事を申し上げているところでございます。正式な要請があれば直ちに対応したいというふうに考えております。

それから、消防の関係ですが、北海道のほうで今、2次派遣をすることになっておりまして、あすから、北見の消防組合、それから帯広の消防本部、釧路の消防本部、合わせて12名が、おおむね1週間の形で現地のほうに派遣をするということになっておりまして、網走地区の消防組合に関しましても、準備といいましょうか、派遣の打診がございます。網走市としては救助部隊が5名体制で2組持っておりますけれども、そのうち救助隊として5名、それから、車両につきましてはタンク車1台と資機材の登載車、2台出せる用意があるということで御返事を申し上げているところでございます。これにつきましても、正式な要請があればそういった体制をとるということにしております。

あわせまして、きょうの消防庁からの情報ですが、これと別に、救急隊として車両、輸送車を出してくれないかという打診がございます。消防にはマイクロバスの輸送車がございますので、これにつきましてもOKという返事を出しておりまして、きょう、あす中ぐらいにははっきりするのではないかと思いますけれども、正式な要請があれば、今週末には2名でその輸送車を派遣するというような格好になるかと思っています。

それから、支援体制についてなのですが、今、先ほど申し上げましたとおり、部長会議では、と

りあえず窓口的には総務課にしておりますけれども、支援対策本部といいましょうか、名称がちょっとどうなるかわかりませんが、そういったような組織立てをやったりする必要があるのではないかということで、近々そういった組織立てをしたいと思っています。これは被災された方がこちらのほうに、例えば疎開といいましょうか、来るというようなことが起きた場合に、こういった形で受け入れをするのかというようなことだとか、それから、今、日赤の役員の方が街頭募金等で対応していただいておりますけれども、物資のほうもいろいろと市のほうにもお話があります。また、あわせて、市民の方でボランティアに行きたいというような方も出てくる可能性もございますから、それらを含めて、各部、各課にまたがりますので、そういった組織立てをして対応方をしたいということで、それは近々体制を整えたいというふうに思います。

以上です。

○山田委員

今、副市長から承るいただきました。

道からの要請については最大限こたえていくということで考えていいのだと思いますし、窓口の関係では、当面、総務課ということでしたが、総合的な窓口、対応できるようなことも設置も考えているというようなお話がございました。

それで、市のほうにもきっと市民から多くの声が寄せられているのだと思うのです。きょう、皆さん議員の立場でも市民からいろいろ聞いていると思うのですが、今、副市長からあったように、本当にテレビを見ていますと、すぐ逃げまして、家もないという中で、着がえの衣類もないと。子供のおむつもなし、ミルクもないと。ああいうところを見ていますと、市民はやっぱり何かしたい、何かできないものかということで、かなり真剣に考えてくれる市民も非常に多くなっているというふうに思いますので、ものを集めて送るのがどうかということと、受け皿の問題も一つあるのですが、今、副市長からあったように、例えばインスタントラーメン、家にあるものをみんな集めて送ったらどうだ、古着があったら、着ないものの、使わないものを集めたらどうだと、こういう話もありますし、私、時間がありますから、もし行くならお手伝いさせてもらいさせてもらいますという人たちもいるので、先ほど総合窓口という

お話がありましたが、ぜひ市民の前に明らかにして、網走市はこういうことを考えていますと、ここをやっぱり積極的にきちっとできるものについてはPRしたほうが私はいいと思うのです。

ぜひそういう意味で窓口になっていただいて、何ができるかということは一つありますけれども、市民にやっぱり明らかにして、求めるものは求めていくと、ぜひこういう姿勢を、近々にでも、整理がつけばしていただきたいということをお願いを申し上げたいと思います。

それと、避難地として網走にもし来たいという方がいれば、受け皿としてというお話もありましたので、そこもぜひしっかり取り組んでいただきたいと。

それと、私が考えるに、山形の天童市と友好の関係でつながりを持っていますから、おかげさまで天童市は、これから計画停電などはいろいろあるのかどうかわかりませんが、実際、直接被災をしなかったと。

ただ、原発の問題でまたどうなっていくかという新たな状況が生まれるかもしれませんが、ぜひ逆に天童とこういうときこそいろいろ連携をとって、物が現地にすぐ運べないとしても、天童市さんのもし御協力をいただくのなら、そちらに送って、中間的なターミナル的なものも何かできないのか、そんなこともちょっと逆に模索していただくのも、私はこれからのつながりも含めて非常にいいのではないかというふうに思っていますので、ぜひそんな視点も持ち合わせていただければと、こんなふうに思います。

それと、副市長からあったように、土木技師の要請がありましたけれども、これから復興に当たっては、土木、建築、それから医療や、いろいろな総合的な人たちの、オールニッポンでやらないと復興というのは私は成り立たないような状況なのだろうというふうに思いますから、いつの時点で行けるかということも一つありますけれども、今すぐやれること、あともう少しして出てくること、この時期になったらこういうことがあるということもちょっと計画的に考えながら、市民への呼びかけやいろいろなものも含めてぜひ対応していただきたいと、これは要望になりますけれども、もし何か御答弁があればお受けしますが、なければ要望させていただきたいと思います。

○飯田委員

消防議員も兼ねている議員が多いので、今、消防関係のこと、私も気にしていたのです。地区消防組合というのが、大空町と一緒にあって、特に網走は海も持っていますので、そういう関係の操縦士だとかいろいろいますので、できる範囲の、手薄にならない程度の範囲の中で、やはりもっともっと協力しなければならない部面も出てくると思います。臨時の消防議会でも開いて、しっかり議論すればいいのですけれども、そういう時間もなかなかないので、消防の副管理者として、副市長、ここにいますので、そういう点も考えて、もっともっと支援できないのかということも含めて考えてもらいたいと思います。

○小田部委員長

要望ですね。

○飯田委員

はい。

○小田部委員長

他に。

○小西委員

今、お二人の委員からお話があったことは、本当に思いが一緒だと思っています。ぜひそのような形で早い機会に、緊急の記者会見とかも開いたような形で、山田委員などから非常にすばらしいお話がございました。その辺は早く、やはり取り組んでいる姿勢、取り組みを、やはり市民の皆さんにも共有しながら、被災された皆さんに対する網走市民としての気持ちを、ぜひそこら辺のことは対応していただければと思います。

○小田部委員長

他に。

○岡本委員

今、3人の委員のお話があったとおり、同意見であります。

ただというか、被災地の受け入れ体制含めて、災害直近の状況ですから、やはりこっちから押し売りというより、向こう側の要求に対する体制をしっかりと対応できるようにというふうな視点が僕は今の段階では重要でないかと思うので、そういったことを、皆さんのお話を含めて、私はこのことを申し上げたい。

○高橋副委員長

私も小千谷市に以前行ってきたことがありまして、そのときに感じたことは、やっぱりこっちからの押し売りではないのですね。向こうでこう

いったことを受け入れる、そういったことに納得して、そして何よりも、泊まるところも何もございませんので、そういった自己完結型ということを求められるのだと思いますので、そういったこともよろしくお願ひしたいと思います。

○小田部委員長

時局、国家的な本当に大問題だと思います。

よって、あえて皆さんに水を向け、意見をいただきました。

理事者からも極めて適切な現時点における対応の説明をいただいて、委員の皆さんも御理解をそれなりにいただいたのだと思います。

今後にあるのは、どのような形、どのような展開がなされるのかということも、まさに予想だにできないような状態に原発を含めてあると、このように私どもは認識しております。

よって、総務文教委員会委員の皆さん方にも共通の認識に立っていただいて、網走市としては、だんだんの意見がありましたけれども、人的、物的、あらゆるそういうふうなことに対して、適宜適切に対応をしていただけるようにと、こういったことを総務文教委員会の意思として執行部に要請をし、異論があれば言ってください。その他のこの案件についてはそのような取りまとめと要請にいたしていきたい、このように思っておりますが、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○小田部委員長

そのように、ひとつ理事者の方も鋭意御努力をいただきたい、このように思います。

理事者の方、何かありませんか。

（「ありません」の声あり）

○小田部委員長

それでは、以上をもって、本日の総務文教委員会を終了といたします。

午後 3 時 06 分 閉会